

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1072400235		
法人名	有限会社ころ		
事業所名	グループホームころ		
所在地	群馬県甘楽郡甘楽町大字白倉557		
自己評価作成日	平成22年4月14日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県前橋市大渡町1-10-7 群馬県公社総合ビル5階		
訪問調査日	平成22年7月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日、午前中の2時間程度、玄関先のウッドデッキにて全員、外気浴(レクリエーションを含むお茶会のようなもの)を行っている。
職員と利用者さんとのコミュニケーションを密に図り、他人でありながら家族のように振舞えるような関係作りに重点をおいてケアにあたっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

木材をぜいたくに使用した建物は、吹き抜けの天井になっており、圧迫感を感じさせない造りになっている。玄関先のデッキでは、毎日午前中にお茶会を開き懐かしい歌を歌ったり、手すりのついた回廊を歩いたり、レクリエーションとリハビリテーションを同時に行っている。社長をはじめ管理者は、利用者との関わりの中で、人間が本来持っている喜怒哀楽の感情は人間同士の真剣なやり取りの中でこそ生まれるという思いこいたり、家族のようにコミュニケーションをとることを大切にしている。利用者の尊厳を重視したうえでこの熱い思いを職員にいかに伝えていくかを念頭に置いて、職員とともに日々の支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員間での勉強会や申し送り時に運営理念の再確認を行い、利用者すべてが理念の下、快適で安心できる生活が送れるよう支援している。	家庭的な環境と地域住民との交流をもとに、家族のような喜怒哀楽の感情を大切にしたい関わりが持てるようにとの思いで現在の理念を作成した。現状に即した理念かどうかを問いかけながら、日々の実践に生かせるよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	散歩や外気浴の際、顔をあわせたり、庭より顔が見えた時には、こちらから挨拶し、交流を図っている。 また近所で野菜を栽培している方から時々、野菜を譲っていただいたり、買ったりしている。	地元での会社経営が30年以上あり、ホームの存在は地域住民に認識されている。普段から挨拶を交わしたり、野菜をいただいたり、一人で歩いている利用者にも支援をしてもらえる関係ができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議時など地域の方々が集まったときに少しずつ、情報発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度のペースで、入居状況や事業報告を行い、あとは座談会的に話し合いを行っていて、少しずつ、参加メンバーから発言が出るようになってきたが	2カ月に1度のペースで、運営推進会議を開いている。ホームからの報告と座談会形式での意見交換を行っている。家族や行政など毎回案内は出しているが、出席者は一定ではない。	今年度は行政も参加の方向で検討しているとのことで、引き続き安定した参加を要請していただきたい。報告書では伝えきれない実態を見てもらい、活発な意見交換が行われることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月の状況報告等を行いながら、意見交換を行っている。	毎月の報告とは別に、行政には疑問点をその都度確認するようにし、意見交換している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が正しく理解しているかは不明である。	本人の感情を考慮し身体拘束をしないケアとは、どこまでを指すのかと細心の注意を払っている。午後の時間帯は職員の体制で玄関は施錠しているが、見守りの配慮で施錠しなくてもよいのかという思いも持っている。	開錠が万が一の事故につながらないかという職員の不安と実態との状況を検討し、鍵が及ぼす心理的圧迫感を軽減する取り組みを工夫してみてもどうか。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	ホーム内で具体的な研修の機会は設けていないが、社会福祉協議会等が主催する関係法令に関する研修の機会があったら働きかけたい。ホーム内では常に注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	話し合いたいと思うが、今のところ学ぶ機会を設けていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には条項を十分に読み上げ、不明な点がないか確認し納得していただくようになっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訴えは少ないが、こちら側から積極的に声掛けし、意見を言いやすい雰囲気作りをしている。	家族や親族に面会を働きかけ、現状を見てもらいながら、意見を出してもらえるよう努力している。疑問や意見に対しては、ホームの考え方を伝え、相互で納得できるよう話し合いを行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見で可能なものは取り入れるようになっている。	朝の引き継ぎは職員の教育も兼ねており、日々のケアの見直しや職員の意見交換も行っている。職員には、行事をはじめ活発に意見を出してもらいたいと管理者側は願っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	可能な限り、環境整備に努めてはいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会があれば、積極的に働きかけるようになっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一地域の同業者と交流する機会を作り、お互いの質の向上を目指している。また相互訪問の機会があれば積極的に受け入れ及び派遣をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の際に管理者とケアマネとで相手の話を聞き、十分な話し合いを行っている。 また入所後も定期的に本人から意見や要望等がないか聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の際に管理者とケアマネとで相手の話を聞き、十分な話し合いを行っている。 また入所後も定期的に意見や要望等がないか聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所の際に管理者とケアマネとで十分な話し合いを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の際の下ごしらえやテーブル拭き、お茶入れ、掃除などを手伝って頂いたり、レクリエーションを楽しみながらそこでお互いが笑ったり、泣いたり感情表現を出せるような支援をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来る限り面会に来所していただき、利用者や職員と一緒にお茶や食事をしながら話をする機会を設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔の知合いの方等は時々来所してくれるので、また来てもらえるよう、その都度、声掛けは行っている。	散歩の途中で知人に会ったり、知り合いがホームに来所してもらえることを大切にしている。自宅への外出も家族と相談しながら支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性が合わない利用者さん同士も職員が介在することにより孤立しないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	こちらから何かあれば遠慮なく連絡下さいと話し、退去後も協力関係を継続するよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活やアセスメントの中で、その人の生活傾向のパターンを把握し、職員同士で情報交換を行ってケアに活かしている。	散歩や外出した際などを利用して、それぞれの思いを聞くようにしている。一人ひとりの意向を考慮しながら、退屈しないよう日常生活の中にレクリエーションや運動を取り入れたり、食事に好みのメニューを取り入れるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前に家族や本人からアセスメントを取り、なるべく具体的な生活歴や趣味を把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護計画書にも反映させ、職員全員で取り組んでいくよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネが主導で家族や本人から意向を確認し、職員全員で話合って作成している。	月に1度ケアマネジャーや看護師も参加してカンファレンスを開き、家族や本人の意見も取り入れた介護計画を作成している。モニタリングも月に1度行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	普段と違う発見があれば、その都度、個人記録に記入し、ケカカンファレンス時に話合って介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族や利用者さんの要望を聞いて、可能な限り、柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の小学校の運動会に招待していただいたり、定期的に地元の演芸サークルに在所していただいて、利用者さんと一緒に歌を唄ったりして楽しむ時間を作る支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全ての利用者が家族の同意を得て、当ホームの主治医に受診している。	家族の同意の上、ホームのかかりつけ医を主治医にしている。月に1度の往診・訪問看護が定着しているが、必要に応じて受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者さんの状態について変化や気づきがあった場合には、管理者を通じて看護師に伝達し、指示を仰いでいる。また必要がある場合には主治医に情報提供し、訪問看護の派遣をお願いする等の対応に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会を必ず1日1回以上行い、環境の変化によるダメージを最小限にするよう努めている。また、医師とのこまめな情報交換により、利用者さんの状態把握をし、退院出来そうなら受入れ態勢を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医や非常勤看護師との連携により、早めの時期から家族を含め、今後についての方針を話し合う場を設けている。	医療機関との協力関係も整っており、指針をもとにその都度、家族に説明し相談しながら看取りも含めた支援をするようになっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が不安を抱えているが、消防署やグループホーム連絡協議会が主催する救急救命講習会等に参加し、知識と技術の習得に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	常日頃から近所の片方との交流を大事にし、お互い協力関係を築く努力をしている。また年2回、消防、避難訓練を行っている。	年に2回昼夜を想定した消防・避難訓練を実施している。1回は消防署の協力を得て行っている。訓練時に地域からの協力は今のところ得られていないが、救急救命訓練の際には参加を呼び掛けた。	地域への協力依頼は考えており、運営推進会議を利用して段階的な取り組みを今後期待したい。また、災害時の物品の備蓄についても検討していただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉掛けには常に細心の注意を払っている。	利用者との関わりの中で喜怒哀楽のこもった感情表現のやり取りは、人格を尊重したうえで成り立つケアであることを、社長・管理者は職員に伝え、対応するようにしている。	社長・管理者の思いである利用者の個性や日々の変化に応じたコミュニケーションは、すべて人格を尊重したうえで成り立つということを今後も継続して伝えていかれることを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何が食べたいか、何がやりたいか、その都度希望を聞くようにしている。さすがに全員から意見は出てこないが、少しずつ意見が出るようになってきたので可能なことは叶えられるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の生活パターンが確立されているので全体的な動きになりやすいが、その中でもそれぞれの利用者さんが退屈しないようレクを取り入れて1日を楽しく過してもらえよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は、本人の意思にまかせているが、必要がある場合には職員の声掛けにより、衣服の調整をさせていただいている。 散髪は近所の床屋さんをお願いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の簡単な下ごしらえやお膳の片づけなどは手伝っていただいている。	利用者にも野菜の下準備やテーブル拭きなどできることをしてもらい、食事は職員も一緒にテーブルで味わっている。メニューには庭でとれた野菜や地域の食材を取り入れ、食べやすい調理方法に工夫して提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、朝・昼・夕の食事摂取量及び、水分摂取量を記録し、バランスが崩れないよう配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず全ての利用者さんの口腔ケアを行っている。自分で出来る利用者さんには自分で行っていただいているが、職員が付添い、しっかりケア出来ているか見届けるようにもしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日の排泄時間や水分摂取状況を考慮に入れ、失禁させないよう、2時間おきくらいに声掛けを行い、トイレで排泄していただくよう誘導している。	失禁による不快感をなくすため、それぞれの排泄状況を踏まえてトイレ誘導を心掛けている。昼夜を含め、パットを使用している利用者はいるが、オムツ使用者はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一定期間、排便の無い利用者さんには普段以上に歩行訓練を行って頂いたり、冷水を飲んでいただくなど出来る限り、自力排便が出来るように支援している。食事野菜物を多く取入れたメニューにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望は考慮しているが、入浴日はこちらに合わせていただいている。	毎日でも入浴できることが理想的であることは認識しているが、入浴日を火・金の週2回とし、1日かけて順番などを考慮して実施している。	現在の入浴支援の方法に利用者も慣れているとのことであるが、改めて本人の希望や思いを確認する行為として、個々の要望に応じた入浴支援も取り組んでみてはどうか。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者さんのその日の状態に合わせて、休息したり、眠って頂いたりしているが、基本的には規則正しい生活をしていただくよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方があった際には、薬局でその薬についての資料が貰えるので職員間で情報を共有出来るように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴は活かしてきれていないが、日々の生活の中で個々の役割を見出し、行っていただくことで張りのある生活を過ごせるように支援している。最低でも月1回は外出機会を作るようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員の人員が少ないので、なかなか機会は作れないが、最低でも月1回程度は外出する計画を立てている。また家族が面会に来所された際にも気分転換の外出をお願いしている。	月に1度は2～3時間程度の外出を企画している。毎日午前中は玄関前のテラスを利用してレクリエーションを行い外気に触れる機会を持っている。また、近所に散歩で出かけた後、家族の面会時には外出もお願いしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことの大切さは理解しているが、原則として金品の持込みは遠慮している。例外的に僅かなお金を持込んでいる利用者さんもいるが、お金が必要な際はこちらで立替えたり、職員が立会いの下で使ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望のある際は電話を使う対応をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物内の壁には木を張って、落ち着いた雰囲気を出せるように工夫し、ホールには毎月、職員と利用者さんが協力して作った季節感のある手書のカレンダーを飾ったり、玄関先には花を植えて居心地の良い雰囲気を作している。	木のぬくもりを感じる建物で、玄関前にはお茶を楽しめるスペースや安心して歩行できる手すりのついたコースも設けてあり、午前中のレクリエーションで利用している。庭には様々な木々や花が植えられており、季節の移ろいが感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内のテーブル以外にベンチを設けて1人になれる場所を作ってはいるが、レク等を行う際には声掛けして参加していただくようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染の家具や日用品は持参して頂いたり、誕生日等の特別な日には撮った写真を壁に飾る等の工夫をしている。	仏壇や家族の写真を持ってきている利用者もいるが、ほとんどが衣装ケースにベッドだけのさっぱりした居室になっている。	それぞれが慣れ親しんだ家具や趣味の物を身近におくことで、その人らしさや安心感が生まれることを家族にも伝えてみてはどうか。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリー構造とし、身体機能の低下を防ぐ為、毎日、歩行訓練、シルバー体操等を行っている。また生活の中で個々に合わせた役割(仕事の手伝い)を見出し、行っていただくことで張りのある生活を過せるよう工夫している。		